

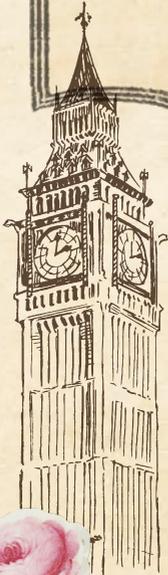
London



ロンドン大学

英語音声学セミナー

研修報告書

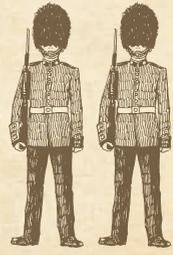


*Summer Course in
English Phonetics*



University College London

大妻女子大学文学部英文学科





もくじ
Contents

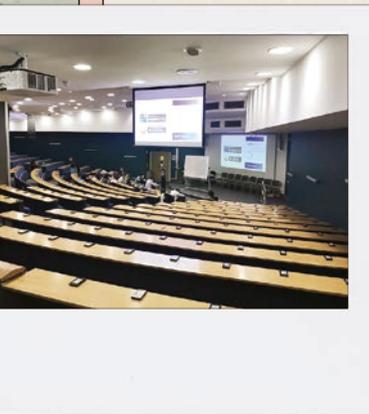
英語音声学セミナーとは	03
一日の授業の構成について	03
Photograph Collection 《授業》	04
Photograph Collection 《観光》	06
Photograph Collection 《寮・食事》	08
3年B組 加藤 春	09
3年B組 永江 桃子	10
3年A組 泰 知栄美	11
2年A組 高橋 陽香	12
2年A組 吉原 晶子	13
3年A組 津田 和冴子	14
THE INTERNATIONAL PHONETIC ALPHABET	15



ロンドン大学 英語音声学セミナー とは？

- 歴史のある国際的英語教育機関です。
- 2週間にわたり、英語音声の講義と訓練を行います。
- 毎年、世界中から、数多くの学生・教員が参加します。
- クラスは少人数で、レベル別に編成されます。
- 講師は、英語音声学の専門家で、英国を代表する大学教員です。
- 参加者は、大学の近辺にある、大学直属の学生寮に滞在します。
- 場所は、ロンドン中心部にあり、観光・芸術鑑賞・ショッピングにも最適です。
- 帰国後、手続きをすれば、専門科目として認定されます。
- 英語教育・イギリス英語・英国文化に関心のある学生の皆さんの参加を募ります。

一日の授業の 構成について



はじまり

- 9:00~ 9:45 講義(発音)
- 9:55~ 10:40 実習(発音)
- 10:40~ 11:15 休み時間
- 11:15~ 12:00 講義(イントネーション)
- 12:10~ 12:55 実習(イントネーション)
- 13:00~ 14:00 昼食
- 14:00~ 14:45 イヤー・トレーニング
- 15:00~ 15:45 特別講義(オプション)

おわり

Photograph
Collection

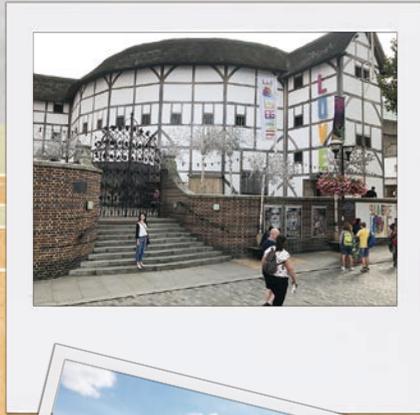
授業





Photograph Collection

観光





Photograph Collection

察・食事





セミナー(講義・演習)についての感想

中学から学んできた英語学習ではアメリカ英語に触れる機会が多かったので、イギリス英語では簡単な英語ほど聞き取るのに苦労しました。講義や演習の難易度は高く、理解するまでに時間がかかりましたが、高橋豊美先生の予習のおかげで何とか遅れることなくついていくことができ、重要用語も覚えることが出来ました。一番興味深かったのはイントネーションの講義で、イントネーションを使い分けることで相手に与える印象が変化するというものでした。これからは学んだことを生かしてイントネーションの使い分けを実践していきたいと思えます。



College Hall

(食事・寮生活一般)

寮生活は初めての経験で、洗濯から食事まで全て自分の事は自分でやらなくてはならなかったので大変な思いもしましたが、部屋は結構広く、リラックスして過ごすことが出来ました。フロントの方にも親切にいただき、困ったときは助けていただいたり、おすすめの場所や地下鉄のことも教えていただきました。また、寮で毎朝出てくるパンが美味しくて、毎日違う種類のパンを選べるのが私の楽しみでした。大学帰りに買うフィッシュアンドチップスは量は多いですが、美味しくてお勧めです。

放課後の過ごし方

ミュージカルやオーケストラを堪能でき、充実した贅沢な放課後を過ごせました。どちらも初体験だったので、迫力と美しさに心から感動しました。ミュージカルは野外で行われましたが、天気にも恵まれ、ついうっとりしてしまいました。



滞在中、特に印象に残った事

講義の後で行われるイヤートレーニングでは、あいまい母音を主に指導されたのですが、私はなかなか思うように発音出来ませんでした。そのときに先生から「腹を殴られたときに出る一発目の声だよ」と言われ、これが意外と効果的で、このアドバイスのおかげで発音出来るようになりました。



週末の過ごし方

ロンドンにはたくさんの有名な観光地があったので、出来るだけ足を運びました。入場無料の博物館もあり、何度も見て回ることが出来て楽しかったです。ショッピングも楽しみの一つでロンドンでしか買えない物を買ったり、商品を見ているだけでも満足感を味わえました。



セミナー(講義・演習)についての感想

高橋先生の補講の後に、次の日の講義の部分を読み内容の確認をしていた。講義で最も興味を引かれたのは、イントネーションについてだった。イントネーションについて学べたことは、これから英語で会話をする際にとても役立つと感じた。演習では、今まで習ってきたアメリカ英語の発音をイギリス英語に直されるだけでなく、イギリスで使われている単語に直されることも多かった。自己紹介の際、本屋でアルバイトをしていると言い、本屋を”book store”と言ったところ”book shop”の方がイギリス的だ、と教えてもらったことが印象深い。



College Hall

(食事・寮生活一般)

夕食はレンジで温める系の食べ物を買ったが、味が濃くて微妙なものや味が薄くてつらいものが多かった。朝食は脂っこいものも多く、野菜がトマトとマッシュルームのみで「朝から胃もたれしそうだな」と思った。整腸剤を持って行って正解だった。しかし、レストランの食事と、高橋先生に教えていただいたフィッシュアンドチップスの店、サンドイッチは美味しかった。また、アフタヌーンティーを気軽にできる店に行き、友人と雰囲気を味わうことができた。自分の部屋は広く、水回りの設備も壊れることなく快適に過ごせた。ただ、ベッドメイクをされるということを知らず、初めてされたのが帰る二日前だった。

放課後の過ごし方

洗濯をした一日を除き、放課後に出かけなかった日はなかった。地下鉄とバスを駆使し、ロンドン中心部の観光地はかなりの数を回った。アビーロードに行ってみたら車の通行量が多く、写真が上手く取れなかったため、またチャレンジしに行きたいと思っている。また、UCLのイベントにも多く参加し、その中でもミュージカルが特に印象に残った。Jesus Christ Superstarを観劇し、ミュージカル本場の力に圧倒された。

週末の過ごし方

ケンブリッジに行ったのが特に印象に残っている。他大学の友人がケンブリッジ大学に短期留学をしており、彼女に会いにロンドンから一人で電車に乗ってケンブリッジへ行った。日本の電車とは異なり、乗る少し前にしかこのホームから列車が発車するのかわからず、緊張しながらキングスクロス駅で電光掲示板を見ていた。一時間ほどでケンブリッジに着き、ロンドンとはまた違ったイギリスの街を観光することができた。他にも、アーセナルのエミレーツスタジアムの見学にも行った。スタジアムツアーができて、日本語の音声ガイドを聞くこともできた。

滞在中、特に印象に残った事

雨がほとんど降らなかったこと。以前ロンドンに行った人に聞いてまず言われるのが天気だったため、覚悟をして行ったところほとんど雨に降られなかった。毎日ほぼ晴れで、ようやく雨が降った時に先生に“*This is British weather!*”と言われた。寒かった時用に持ってきたセーターやトレンチコートを着る機会はなかったが、観光には素晴らしい天気だった。



セミナー(講義・演習)についての感想

音声学の講義は、大学の先生方がすべて英語で行い、内容も日本では教わらないことばかりで、難しいものでした。講義の前日の夜に高橋先生の予習があり、予習でやったところが講義で話題になると少しついていけるレベルでした。

演習は、発音練習、アクセント練習、Earトレーニングです。発音練習は大妻の課外英語に近い感じでした。アクセント練習は日本ではやらないもので、アクセントのある単語を目立たせて話す練習でした。特に私のためになったEarトレーニングは、講師のミラー先生がゆっくり発音して下さるので、とてもわかりやすく、違いがわからなければ何度もやってくださいました。

College Hall

(食事・寮生活一般)

食事は脂っこいものが多いので、果物をいつも食べていました。また、お昼ご飯用にタッパを用意して食べきれない分を入れました。

寮の生活は、シャワーと洗濯が大変でした。シャワーは日本と違い立って浴びるので、最初は慣れるのに大変でした。また洗濯は現金も使えますが、お札が使えないためカードでやりました。そのカードも、5ポンドまでしか入れられないので、洗濯するたびにクレジットカードの暗証番号を登録するのが面倒でした笑

放課後の過ごし方

放課後は、15時からの講義に出なければ高橋先生の予習まで6時間あります。私は、Oxford streetやChina Townまで歩いたり、寮は夕飯が出ないので、夕飯の買い物をしました。



滞在中、特に印象に残った事

滞在中に思ったことは、自分の英語力不足でした。道で何かを聞かれても答えられない、大学の講義で先生たちが面白いことを言っても笑えない。それは人としてどうなのかと思いました。また、アラジンのミュージカルを観にいきましたが、台詞がわからず、結局衣装や人物、音楽などを頼りに読み取ることしかできない自分がいました。今回が私にとって初めての海外で、そのことに気付けたことは自分にとってよかったことでもあり、悪いことでもあったと思います。次回もまた自分が海外に行くなら、日本でもう少し英語の知識を増やしてから行きたいと思いますし、今度は現地の人のように道で尋ねられたら答える、また困っている人がいたら助けるなど積極的に行動できる人になりたいと思いました。

週末の過ごし方

大英博物館を2日に分けて行ったり、ビッグベンが好きで写真を撮りに行ったり、趣味のショッピングをして楽しみました。West Fieldという大きなショッピングモールは地下鉄で20分くらいのところがあるので、ファッションが好きなお勧めします!好き過ぎて、2回行きました笑



セミナー(講義・演習)についての感想

講義はもちろんすべて英語で進められました。一年生の時の音声学の授業で取り扱った内容を含め、発展した内容も学びます。全体の内容をすべて理解することは難しかったですが、最初はこんなことを言っているのかなと考えながら受講していました。高橋先生の予習のサポートもあり、次第に先生が言っていることが大體理解できるようになりました。それが自分の自信になり、最終的には講義を聴きながらメモを取れるようにもなりました。講義はジョークを交えたものだったり、みんなで実際に声を出したりなど参加型の講義もありました。私は一年生の時はアメリカ英語の音声学を学んでいたのですが、イギリス英語との違いを比較しながら学べたのでとても興味深いものでした。



College Hall

(食事・寮生活一般)

セキュリティはしっかりしており、部屋も一人で過ごすには十分な広さで、無線LANもあり快適に過ごすことができました。ただエアコンがないので朝は肌寒かったです。朝ご飯は寮の食堂で、お昼ご飯は朝に食堂で作ったサンドイッチ、夜ご飯はスーパーで買ったサラダやパンを食べていました。夜に予習のない日は、高橋先生おすすめのレストランでフィッシュアンドチップスを食べたりもしました。料理の味は全体的に薄いか濃いかの両極端だったと感じました。日本食屋さんもありましたが、あまり美味しくないです。寮には共用の湯沸かし器と電子レンジがあるので、日本からインスタント食品を持っていくことをお勧めします。

放課後の過ごし方

夜の予習があるため、遠くまでは行けないので近場でお買い物をしたり、綺麗な街を散策したりしました。ロンドンは東京の都心部と同じように交通網が発達しているため、地下鉄やバスを使えばより行動範囲が広がり、少ない時間でもたっぷり自由時間を楽しむことができます。世界遺産など多くの観光スポットがロンドンに集まっているので、予定をしっかり立てておけば充実した放課後を過ごせます。また、寮のすぐ近くには大英博物館がありますが、一日では絶対に回り切れないので何回かに分けて行くといいです。入館料は無料なので気軽に行けます。



滞在中、特に印象に残った事

駅の階段で女性の方が重そうな荷物を持っていた時、通りすぎた男性が代わりに荷物を持ってあげている光景を何度も見かけました。日本ではなかなか見られない光景だったので一番印象に残っています。レストランでは、Hi, ladies! Where are you from? と声をかけられました。海外の人たちは積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢が印象的でした。お店の従業員同士で楽しそうにお話をしていたり、鼻歌を歌いながら作業していたりなど、日本では見られない場面に遭遇しました。面白かったと同時に、日本の接客サービスの素晴らしさを実感しました。スーパーなどのほとんどのお店で必ずと言っていいほど紙袋が必要と聞かれます。お店によっては有料なのでエコバッグを持っていけばよかったと思いました。イギリスは並ぶ時の列を'line'ではなく'queue'(キュー)と言い、お店やトイレなど様々な場面で'Are you in the queue?'と聞かれます。アメリカ英語では使われないので、これもまた印象深いです。

週末の過ごし方

一日中時間が自由なのでナショナルレールという高速鉄道を利用して遠い場所へ行きました。土曜日はシェイクスピアの生家がある、ストラットフォード・アポン・エイボン。シェイクスピアのミュージアムや実際に彼が暮らしていた家を見学しました。日曜日はハリーポッターのロケ地であるクライストチャーチがある、オックスフォードへ。とても天井が高く、映画で見た光景が目前に広がっていて感動しました。ナショナルレールのチケットの買い方が分からず、あたふたしてしまいましたが、近くの人に聞けばすぐに教えてくれます。英会話の練習にもなるので、自分から積極的に話しかけるといいです。



セミナー(講義・演習)についての感想

講義は教授の話すスピードがとても速く、独特なイギリス英語の上、講義の内容を理解しながら受けるのは最初はとても大変でしたが、高橋先生が毎晩次の日の講義の予習を日本語でしっかり教えてくださったおかげで、頭が混乱することなく理解しながら次の日の講義を受けることが出来ました。

演習は少人数で一人一人の発音をしっかりとみてもらい、きれいなイギリス英語を基礎からしっかり教えて頂けました。



College Hall

(食事・寮生活一般)

寮の部屋は一人には十分な広さでした。机も大きく勉強をするのにとてもいい広さでした。また別の部屋に誰でもお風呂に入れる部屋もあったので、日本人にとってはとてもいい設備だなと思いました。

食事は朝食のみでしたが、とても種類が豊富でした。ただ野菜がなかったので食べたいと思ったら自分で買って食べる必要がありました。

放課後の過ごし方

放課後は夜の9時に予習があるので遠出は出来ませんが、学校と寮がロンドンの中心地でしたので行く場所が沢山ありました。

私は、寮から徒歩ですぐの有名な大英博物館に行ったり、ハリポッターで有名な駅のキングスクロス駅へ行ったりしました。こちらでも電車でも徒歩でも行けます。そのほかには、スーパーなどに行ってお買い物をしたりしました。

滞在中、特に印象に残った事

私が一番印象に残ったことは、町の人がとても親切だったことです。オックスフォードに行った時は迷子になって1時間くらい歩き回ったのですが、もう聞かないって思い道を聞くと場所がすぐ分かり、さらにとても親切に地図を出して教えて頂きました。

他にも、駅のチケットを買う時に駅員さんがおらず、戸惑っていた時に一般の方に買い方を教えて頂きました。

共通したことは親切にしてくれた人達全員が嫌な顔をせず教えて頂いたことです。とても暖かい町だなと思いました。もう一つは、地下鉄で移動している時日本と違い、スマホをいじっている人が少なく、本を読んでいる人が多かったことが印象に残りました。

週末の過ごし方

週末は放課後では行けなかった少し都心から離れた場所に行きました。

一つ目はシェイクスピアの故郷のストラトフォードアポンエイボンという場所に行きました。ここへは約2時間ほどで行きました。英文科の生徒からすると、とても興奮しました。

二ヶ所目は、オックスフォード大学のクリストチャーチに行きました。ここはハリポッターのモデルとなった場所で、あの有名な食堂がありました。

週末は1日時間があったので、ロンドンから少し離れた観光地を回ることができました。

セミナー(講義・演習)についての感想

このセミナーは音声学を専門的に学んでいる人など海外の人々が多く参加するサマーコースであるため、講義の内容は想像以上に深いものでした。しかし前日に高橋先生の予習時間があるので、英語で行われる講義自体に問題なく理解することができます。音声学を理解する上で、「英語学(音声・音韻)」(3・4年次選択科目)を受講してから参加すると「授業でやったあれのことだ!」などと理解ができて楽しいと思います。

放課後の過ごし方

最初の2日ほどはすべて英語の授業に対する疲労からそのままベッドに…ということがありましたが、それでは勿体ない!と3日目以降放課後は授業が終わったら21時の予習の時間まで観光、買い物を楽しみました。ロンドンの街はお城のよくな建物が多いのでいくら歩いても飽きません!

マダムタッソーロンドン、大英博物館、バッキンガム宮殿、グリーンパーク、シャーロックホームズ博物館など多くの観光地を放課後に楽しむことができました。時間が中途半端に余った時は、寮と大学の間にあるWaterstonesという有名な本屋さんで本を読みました。三階まであり、たくさんの本があるのでみているだけであつという間に時間が過ぎてしまいます。

マダムタッソーロンドンは、英国のスターのマネキンがたくさんあります。ディズニーランドのようなちょっとしたアトラクションもあり、英国の歴史も楽しく学ぶことができました。

大英博物館はとにかく広い! 事前に見るべき5選などをネットで調べてから行くのが良いと思います。寮から徒歩5分圏内なので、何日かに分けていくのも良いと思いました。

週末の過ごし方

金曜日と土曜日は夜に予習がないので平日に比べてのんびり観光を楽しめます。ロンドンアイからの夜景とピクベン、タワーブリッジのライトアップは最高でした。夜でも人通りが多いので一人でも安心でした。

日曜日の朝早くに出発しオックスフォードストリートを真っ直ぐ、ウィンドウショッピングを楽しみながらマープルアーチ駅のHydeparkまで歩きました。休日ということもあり多くの人がピクニックを楽しんでいて家族連れでのんびり過ごしていました。

一番の思い出は、シェイクスピアの生まれた地、Stratford-upon-Avonへ行ったことです。ロンドン市街からは国鉄で片道2時間かかるため土曜日の朝から出かけました。シェイクスピアの家だけでなく教会やマーケットなどもあり、市内とは全く違う町並みを楽しむことができました。

College Hall

(食事・寮生活一般)

部屋は思っていたよりも広くて快適に過ごすことができました。個人の部屋にはシャワールームがあり、共有のバススタブのあるバスルームが各フロアにあります。寒い日が続いたので、湯船に浸かることで体の芯から温まりゆっくり眠ることができました。

朝食は毎朝8時からとても混雑するので10分前に行っていたのですが、それでも大行列でした。基本的なメニューは毎日変わらないのですが、フルーツやパン、また飲み物は種類が豊富なので飽きることなく過ごせました。朝食の際にお昼用のサンドイッチなどを作ると食費が浮くのでお勧めです。

滞在中、特に印象に残った事

特に印象的だったことは、人々の温かさです。私は日本でもバスに乗ることが苦手なのですが、ロンドンではバスでの移動が発達しているため避けることができませんでした。滞在期間中Wi-Fiのない中で道に迷うことが何度もありました。また、携帯電話の充電が切れてしまうなどアクシデントが多かったのですが、たくさんの方が助けられました。



タワーブリッジのライトアップ



国鉄の窓からの景色



シェイクスピアの家の庭

THE INTERNATIONAL PHONETIC ALPHABET (revised to 2015)

CONSONANTS (PULMONIC)

© 2015 IPA

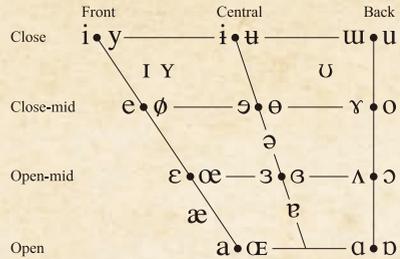
	Bilabial	Labiodental	Dental	Alveolar	Postalveolar	Retroflex	Palatal	Velar	Uvular	Pharyngeal	Glottal
Plosive	p b			t d		ʈ ɖ	c ɟ	k ɡ	q ɢ		ʔ
Nasal	m	ɱ		n		ɳ	ɲ	ŋ	ɴ		
Trill	ʙ			r					ʀ		
Tap or Flap		ⱱ		ɾ		ɽ					
Fricative	ɸ β	f v	θ ð	s z	ʃ ʒ	ʂ ʐ	ç ʝ	x ɣ	χ ʁ	ħ ʕ	h ɦ
Lateral fricative				ɬ ɮ							
Approximant		ʋ		ɹ		ɻ	j	ɰ			
Lateral approximant				l		ɭ	ʎ	ʟ			

Symbols to the right in a cell are voiced, to the left are voiceless. Shaded areas denote articulations judged impossible.

CONSONANTS (NON-PULMONIC)

Clicks	Voiced implosives	Ejectives
◌ Bilabial	ɓ Bilabial	◌ Examples:
Dental	ɗ Dental/alveolar	◌ p' Bilabial
! (Post)alveolar	ɟ Palatal	◌ t' Dental/alveolar
≠ Palatoalveolar	ɡ Velar	◌ k' Velar
Alveolar lateral	ɠ Uvular	◌ s' Alveolar fricative

VOWELS



Where symbols appear in pairs, the one to the right represents a rounded vowel.

OTHER SYMBOLS

- ɱ** Voiceless labial-velar fricative **ɕ ʑ** Alveolo-palatal fricatives
- ɰ** Voiced labial-velar approximant **ɭ** Voiced alveolar lateral flap
- ɰ** Voiced labial-palatal approximant **ɥ** Simultaneous **ʃ** and **x**
- ħ** Voiceless epiglottal fricative
- ʕ** Voiced epiglottal fricative Affricates and double articulations can be represented by two symbols joined by a tie bar if necessary.
- ʔ** Epiglottal plosive

ts **kp**

SUPRASEGMENTALS

- ˈ Primary stress **ˈ** *founəˈtʃən*
- ˌ Secondary stress **ˌ**
- ː Long **eː**
- ˑ Half-long **eˑ**
- ◌ Extra-short **ɛ̋**
- | Minor (foot) group
- || Major (intonation) group
- Syllable break **ˌi.ækt**
- ◌ Linking (absence of a break)

DIACRITICS Some diacritics may be placed above a symbol with a descender, e.g. **ɲ̥**

◌ Voiceless	ɲ̥ ɖ̥	◌ Breathily voiced	ɲ̬ ɖ̬	◌ Dental	ɽ ɻ
◌ Voiced	ɲ̬ ɖ̬	◌ Creaky voiced	ɲ̰ ɖ̰	◌ Apical	ɽ̠ ɻ̠
◌ Aspirated	ɽʰ ɻʰ	◌ Linguolabial	ɽ̟ ɻ̟	◌ Laminal	ɽ̟̞ ɻ̟̞
◌ More rounded	ɔ̠	◌ Labialized	ɽʷ ɻʷ	◌ Nasalized	ɽ̃ ɻ̃
◌ Less rounded	ɔ̠̟	◌ Palatalized	ɽʲ ɻʲ	◌ Nasal release	ɽ̃ⁿ ɻ̃ⁿ
◌ Advanced	ɯ̟	◌ Velarized	ɽˠ ɻˠ	◌ Lateral release	ɽˡ ɻˡ
◌ Retracted	ɯ̠	◌ Pharyngealized	ɽˤ ɻˤ	◌ No audible release	ɽ̚ ɻ̚
◌ Centralized	ɛ̠	◌ Velarized or pharyngealized	ɽ̤ ɻ̤		
◌ Mid-centralized	ɛ̠̟	◌ Raised	ɛ̠̥ (ɹ̠̥ = voiced alveolar fricative)		
◌ Syllabic	ɲ̩	◌ Lowered	ɛ̠̜ (β̠̜ = voiced bilabial approximant)		
◌ Non-syllabic	ɛ̠̟̞	◌ Advanced Tongue Root	ɛ̠̟̞̟̞		
◌ Rhoticity	ɽ̣ ɻ̣	◌ Retracted Tongue Root	ɛ̠̟̞̟̞̟̞		

TONES AND WORD ACCENTS

- | LEVEL | CONTOUR |
|---------------------------------|-----------------------------|
| ẽ or ᷥ Extra high | ẽ or ᷥ Rising |
| é High | ᷇ Falling |
| ē Mid | ᷈ High rising |
| è Low | ᷉ Low rising |
| ḛ Extra low | ᷊ Rising-falling |
| ↓ Downstep | ᷋ Global rise |
| ↑ Upstep | ᷌ Global fall |



* 発行者 / 大妻女子大学文学部英文学科
* 企画者 / 英文学科 留学支援委員会
* 発行日 / 2018年2月20日(第1版)